

## 喜名観音堂の由来

### 松田栄清 (1895・M28) 字喜名 (04:00)

くぬ観音堂ぬ、今お祀りしえーる敷地え、始  
いや其処あ、喜名ぬヌン殿内ぬ 百 お爺んでい  
るぬ、墓敷すんち、あぬ前ぬ窪地お敷ち始みて一  
たんでい。

うぬヌン殿内ぬ 百 お爺んでいるぬ、墓敷  
仕掛きとーしが、くれーまた黄金森んち、くんと  
ぬ山お無んりる 話 てー、沖繩んかいあんちゅ  
か。後え、あぬー、大ぎ山くさていさーに、くぬ森  
ぐわーや、四方八方かんし溝ぬ廻とーるばーてー。

あんさーい、読谷村お、是非、其処んかい、首里  
ん遠さい、金武ん遠さくとう、あがとーうんち  
でーならんくとう、でいー其処んかい、御観音様  
んちけーし来んでいる事んかいなていさーに。

あんさーい、「あーあ、其処あ私が墓敷かくて  
くとう、あんしえーならん」ちゃくとう。うりから、  
「公儀とーうんちけーし争いなるばーい。いやーや  
公儀ねー負きれー」んち、あんさーに観音堂造  
たんでい。

うぬ観音堂や金武ぬ寺からうんちけーしつ  
やんでい。やはり、首里ゆかんあれー先んりる 話  
やき  
さ金武お。

あんしさくとう、丁度、九月十八夜、旧ぬ九月  
十八夜、辛丑ぬ日にうんちけーしつ来んでい。  
うぬ仏様うんちけーさる日とーう、また後山内ぬ  
お婆んち、うぬ人ん九十歳余ていから年寄んそ  
ーちやがやー。神とーうんちけーし生まりてい、うさき  
ーな一年ん拝でーみしえーるんでいる物語やし  
が。

うりから、九月十八夜に、うぬ神え金武ぬ寺  
からうんちけーしつ来くとう、九月十八夜あ村ぬ  
拝み、また十九日え喜名ぬ、なー老人若さ揃てい、  
其処んじお祀りやたるばーてー。棒使たい、手踊り  
しちやい、舞踊。うぬ、後山内ぬお婆さんぬウンバ  
ギー祝儀とーう、くぬ観音堂ぬ 仏様うんちけーさ  
る日とーう、丁度、九月十八夜、旧ぬ九月十八夜、  
辛丑ぬ日にうんちけーし来んでい。

### 【共通語訳】

観音堂の始まりの話ね。今、観音堂を祀ってある敷地はね、喜名のヌン殿内の百お爺さんが墓を造るために、前の窪地の地均しを始めていたそう。

ヌン殿内の百お爺さんが均しているその土地は、クガニムイ（黄金の丘）と呼ばれ、このような拝所は、沖縄にもそうそうないという話だよ。後方には敷地を抱くように林があり、四方八方は溝に囲まれているすばらしい丘でね。

それで、読谷山から観音様を拝みに行くのに、首里や金武までは遠すぎるので、村はぜひそこに観音様を勧請しようと決めたんだ。

当初、ヌン殿内の百お爺さんは「いや、それは困る。ここは私が墓を造るために準備しているの、それは出来ない」と断わった。けれども、「お役所と個人で争っても勝ち目は無いよ、お前はお役所に譲ってやれ」といわれて、そこに観音堂が造られたんだって。

金武の観音堂は、首里よりも先にあったという話でね。喜名の観音様は金武の寺から勧請したそうだよ。

そうして、旧暦の九月十八日、辛丑の十八夜に観音様を勧請してきたんだって。その観音様を喜名に勧請したちょうどその日に、後山内のお婆さんが生まれたそうなんだ。後山内のお婆さんも九十歳余りで亡くなったんだけどね、神様と同じ日に生まれたので、こんなに長生きされたという話だよ。

観音様を金武の寺から、九月十八夜に勧請してきたので、それからは、九月十八夜に村の拝みが行なわれ、又、喜名では十九日に、老いも若きも揃って御祭をしたわけだよ。棒術や手踊りなどを披露して祝ったよ。観音様を勧請した日と、後山内のお婆さんが生まれた時のお祝いも、同じ旧暦九月十八日、辛丑の日だそう。

うぬ観音堂ぬ女御神え、童ん達が、生まり  
ーる場や、「手墨学問優らちうたびんそーり」ん  
ち、あぬヲーブシとつか、うりから、墨筆紙捧  
ぎていぬ、其処あ願望するばーてー。また女ぬ生  
まりーねー、あぬヲーブシとつか捧ぎていぬ、「手  
花優らし者なちうたびんそーり」んち。

だー、昔え、今ぬぐとつ錢ぬ有れー買てい着ら  
りーるむのーあらん、むる自給自足るやくとつ。う  
ぬ手花んでいぬ、くぬ着物ん自分くる藍染みて  
い、自分くる総しこーてい機んかい織いてーくと  
う。あんさーにうぬ女御神え、あぬ繁昌とつか、  
うりから手墨学問、なー童ん達あ教育やるばー  
てー、くぬ女御神え。

又、あぬ土帝君やまた男御神やるばーてー。  
其処あ、農業ぬ神。働きわる裕福に物お食りいち  
ゆるんち。うぬ人お、土帝君やかんし、片手や  
くえーかたかたていーくがにだ  
鍬え担みてい、片手やかんし黄金抱ちよーるば  
ーてー。あんし、働ちゆる人ぬる黄金え抱ちゆーす  
る。働かん人おちやー貧乏、食かんていーすん  
どーりる意味、あぬ土帝君や。

あんさーい、九月十八夜あ村拜み、また十九日  
え字拜みやたしがよー。なー、今あ、うりんたつた  
はいしやくいんちなー  
い廃止なてい、なー役員びかーんさーに、喜名んで  
ー、其処あ拜むる事なとーしがよー。

その観音堂の女神様に、墨筆紙やヲーブシ(芭蕉  
糸)を供えて、子どもの健やかな成長を祈願するわけ  
さ。墨筆紙を供えるのには「手習いや学問に優れさせ  
てください」という意味があるわけだよ。また、女の  
子の場合には、「織物上手な子にしてください」との  
意味を込めてヲーブシを供えた。

今のようにお金があれば買って着ることもできる  
が、昔はそうではないでしょう。全部自給自足だった  
ので、自分で藍染めし、総糸を準備して機織りした  
からね。だから、その女神様には、家内繁盛や師弟  
の教育を祈願するわけさ。

また、あの土帝君は男の神様であるわけさ。そこは  
農業の神様。働く者こそ食べ物にありつくことがで  
きるという意味だよ。この男神、つまり土帝君は、こ  
のように片手は鍬を担ぎ、片手には黄金を抱いてい  
る姿でね。働く人こそが黄金を抱くことができる。働  
かない人は、ずっと貧乏で、食いはぐれるという意味  
があるそうだよ、土帝君には。

そういうことで、九月十八日は村の拜みで、十九日  
は字で拜んでいたのだがね。それももう、だんだんと  
簡略化されて、今ではもう、喜名では役員だけで拜む  
ようになっているんだ。